

こいで
小出地区
(新潟県魚沼市)

- 計画期間 令和4年度～令和8年度
- 面積 103ha
- 交付対象事業費 3,347.5百万円
- 市人口 34,125人

ポイント

魚沼市版コンパクトなまちづくりをけん引する、賑わいのある中心市街地の再生

目標

- ① 公共施設の再編を契機とした都市機能の充実
- ② 中心市街地へのアクセス性や歩行者等の回遊性を高める移動環境の充実
- ③ 安心安全で快適な暮らしを支える居住環境の形成

指標

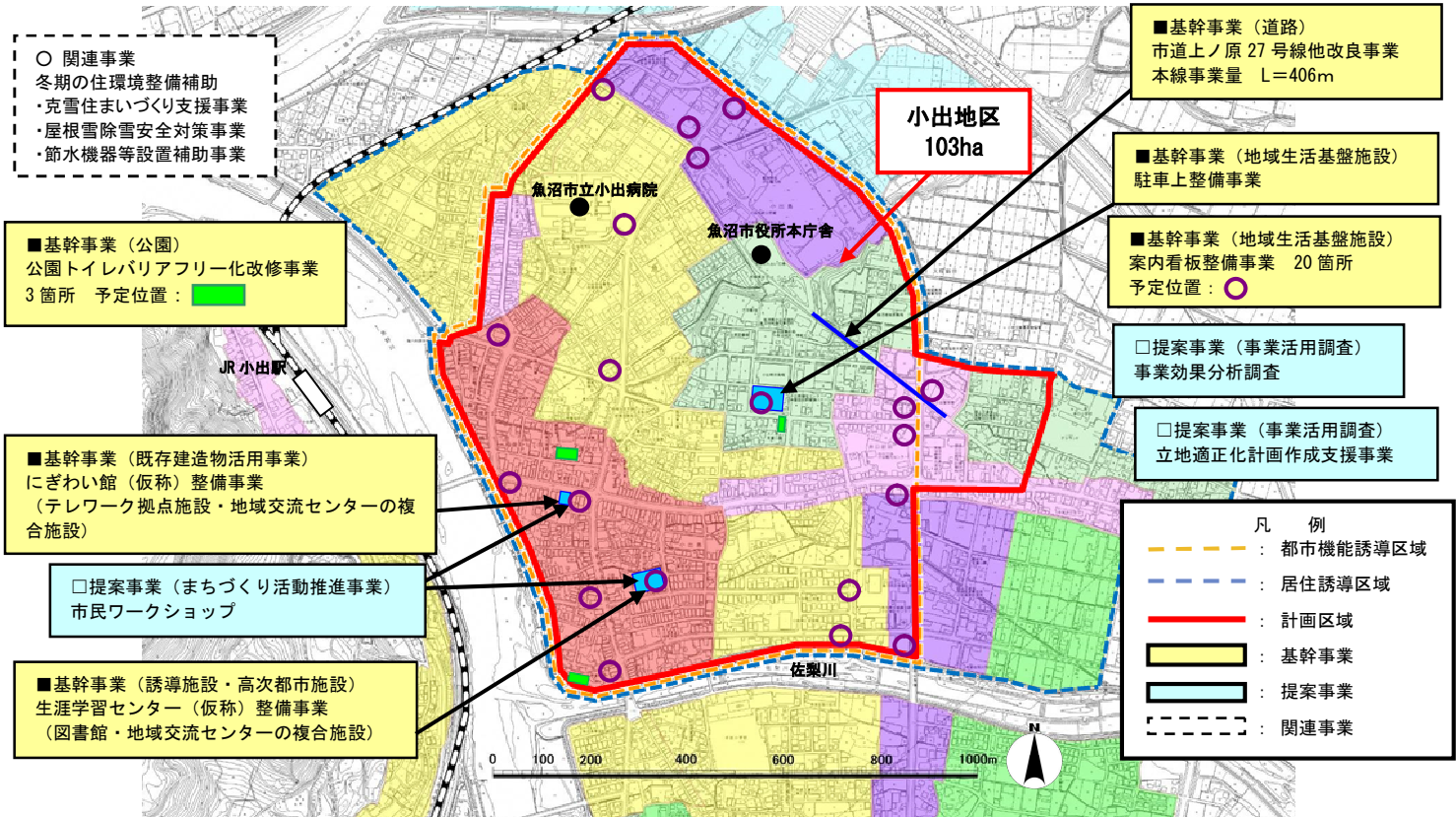
拠点施設等の利用者数の増加と人口減少傾向にある人口動向の改善を目指す。

計画区域内の人口増減率	-6.4%	(R3)	→	-3.1%	(R8)
拠点施設の利用者数	52,898人/年	(R1)	→	87,800人/年	(R8)

事業内容

基幹事業 (3,338.2 百万円) → 誘導施設・高次都市施設 (生涯学習センター整備事業)、既存建築物活用事業 (にぎわい館整備事業)、道路 (市道上ノ原 27 号線他改良事業)、地域生活基盤施設 (駐車場整備事業、案内看板整備事業)、公園 (公園トイレバリアフリー化改修事業)

提案事業 (9.3 百万円) → 事業活用調査 (立地適正化計画作成支援事業、事業効果分析調査)、まちづくり活動推進事業 (市民ワークショップ)



地区の現況と課題

現況

- ・本地区は小出地域の中心市街地にあり、医療、福祉、商業、公共施設などの都市機能が集積する住宅市街地が形成されており、また、JR上越線及び只見線のターミナル駅である小出駅、関越自動車道の小出ICといった広域的な交通結節点に隣接している。
- ・本地区では市全体の傾向と同様に人口減少、少子高齢化が進み、商店街では空き店舗などの増加が見られ、住宅地にも空き家が増加しているなど、中心市街地の空洞化や活力の低下が進行している。
- ・本地区内では令和2年5月に市役所本庁舎が新たに開庁したが、その一方で行政庁舎としての役割を終えた旧小出庁舎の活用が課題となっている。加えて、本町商店街に立地する小出郷図書館は図書の保管スペースや駐車場が不足しており、また小出郷福祉センターは耐用年数を迎えているなど、中心市街地内の公共施設の再編が急務となっている。

課題

- ・旧小出庁舎、小出郷図書館、小出郷福祉センターといった中心市街地に立地する公共施設の再編をまちづくりの契機と捉え、その他の都市機能の導入などを視野に、都市機能の強化を図る必要がある。
- ・中心市街地としての活力を高めるため、公共施設の再編や新たな都市機能の導入にあわせて、人々が回遊しやすい環境を整える必要がある。
- ・日常的なサービス機能から広域を対象とした高次な都市機能までが集積する魚沼市の中心拠点として、他地域からの連絡性を高める必要がある。
- ・多世代の人口集積の受け皿となる住宅市街地では、誰もが安全・安心に暮らし続けられるよう、都市基盤施設の改善や充実を図る必要がある。

提案事業の特徴

まちづくり活動推進事業（市民ワークショップ開催）

誘導施設及び高次都市施設である「生涯学習センター（仮称）」、既存建造物活用事業である「にぎわい館（仮称）」の施設設計に市民や利用者の意向を反映させるためのワークショップを開催している。

計画策定プロセス

立地適正化計画の策定

平成29年3月に魚沼市立地適正化計画を策定し、都市機能及び居住誘導区域を設定するとともに、各種誘導施策を位置づけ、コンパクトなまちづくりを推進している。

市民への意向調査

平成26年「小出市街地のまちづくりに関するアンケート調査」、平成28年には「小出市街地まちづくりワークショップ」を実施し、小出市街地の将来像に関する意見や要望を把握している。また、令和3年度に本地区の自治会や商工会などへ旧小出庁舎の跡地の利活用方針について説明会を実施した。

公共施設再編に係る計画の策定

平成30年3月に公共施設の再編を進めるため「魚沼市公共施設再編整備計画」を策定し、令和3年から第2期を開始している。また、市役所本庁舎建設後の旧庁舎等の利活用について「魚沼市既存庁舎再整備計画」を令和元年9月に策定した。



生涯学習センター（仮称）整備イメージ
（旧市役所小出庁舎跡地）



にぎわい館（仮称）整備予定地
（現：魚沼市立小出郷図書館）



市民ワークショップの様子
（令和4年度5回開催）